



がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

「たくさんのご来場、ありがとうございました」

安全対策のため1家庭1名、学年分散という形での実施でしたが、沢山の保護者に参観いただき、(株)高献事業の活動報告や各学年の合唱と吹奏楽部の合奏、商品販売と株主の方々への配当、そして龍踊りの披露。全てを実施できたことを生徒・職員一同心から感謝しています。



3年生文化部が作成した掲示物

1年発表「地域発見」

①長与町の現状についてプレゼンテーション…人口微増だが、15歳未満は減少、60歳以上が増加



- ②3代目(株)高献の業務内容…「商品部」「経理部」「広報部」「経営企画部」の1年生の業務内容を、インタビュー形式で紹介
- ③高献の商品の「梅干し」が出来るまでを人形PVで紹介。

字幕スーパーをつけて、見る人にやさしい発表でした。



2年発表「起業体験」

人形仕立てのプロモーションビデオ

「商品部」「広報部」「経理部」「経営企画部」の業務内容をおもしろく、様々な工夫をこらして発表しました。

- ①オープニングは、画像とステージを組み合わせ、これから行う発表内容を紹介
- ②商品部は、漫才のような掛け合いで、新商品を紹介
- ③広報部は、3本のCMを紹介し、リモートで見ている3年生にタブレット審査をしてもらうCMコンテスト
- ④経理部は、キレのいいダンスを披露し、経理の仕事内容を説明
- ⑤経営企画部は、桃太郎ならぬ梅太郎という劇仕立てで、経営企画部の業務内容を紹介



高田社長が商品紹介

今年は絵本を保育園や幼稚園へ

「会社説明会と学校祭の企画、梅保全をやりました」

3年発表「地域創造」 龍踊…感謝を全力で表現する

強い日差しの照りつける26日、13時35分。2体の龍は晴れ渡る秋空のもと、勇壮に舞い踊りました。

暴れる龍頭、振られる胴体と尾、それらを必死に支え、高く差し上げる龍方、拍子を整え盛り上げる囃子、みんなの心が一つになって舞いきった感動的な龍踊でした。そして、整列のはずが、そこで再び「もってこい」が…満身創痕の龍が再び天に舞いました。

「地域創造」これに大切なのは、心を通わず何か、なのではないでしょうか。「祭」とか「地域の誇り」とか。そして、今回生徒たちの原動力は、「感謝をつたえる」でした。



吹奏楽部・・・3年生とのラストコンサート 「新たな一步に、エールを！！」

オリンピックの感動を再び呼び起こすようなオープニング「カイト」、心が震え、やる気が湧き上がった「アフリカンシンフォニー」7曲のメドレー、最後に、感謝とともに「愛をこめて花束を」

20分間に全力をかけた吹奏楽部の演奏は、3年部員とともに演奏する最後の演奏でした。そして、全校生、特に3年生に、今後新たな一步を力強く踏み出してほしいという願いを込めた演奏でした。

9月12日まで練習中止、24日まで土日の練習無しという厳しい制約の中、吹奏楽部員は各家庭で自主練習を積み上げ、わずかな期間の合同練習で、このラストコンサートを作りあげました。素晴らしく、感動的な合奏でした。



合唱コンクール 「何ができるか」「どうすればできるか」を考え、やり抜いた。

県独自の緊急事態宣言下で始まった2学期、「学校祭」ができるのか？という不安を持ちながらも、予定通り実施できる場合を想定して、「何ができるか」「どうすればできるか」を模索し続ける1か月でした。

そのような中で、各学級は様々な工夫を行い、学校祭に向けた準備を始めました。

【タブレットを活用した個人練習】

3年生では、サイレント練習と名付けた、タブレットで原曲をとことん聴いて、個人的な音取りを徹底的に行う練習を行っていました。たぶん、他学年においても、各個人が音取りを行い、例年になく多くの生徒が多数回にわたり、音源に耳を傾け、音程や強弱、表現方法などを把握しようと努力したに違いありません。

【入念な練習計画】

どこで練習すると安全にできるか、どのような練習ならば可能か、また、短時間に移動したり、みんなで集まるとしたらどのように並ぶかなど、いざ練習できるようになったときにすぐ実践できるような準備をしたりしたのも、その後のパート練習や全体練習につながったと思います。短期間で合唱を仕上げるうえで、場所や方法をしっかり考えて取り組んだことも大きな工夫でした。

高田中学校には、多くの屋外広場があり、そこを有効に活用していました。ピロティ、中庭、ビオトープ、体育館、武道場などで移動後すぐ広がって練習したり、終了後すぐ移動したりするなど、学級のみんが安全のこと、時間が少ないことを理解して、行動していたことも、大きな成長だと感じました。

【大変な状況だからこそ、一人一人が真剣に、そして、みんなで一致団結】

全体練習の時間や練習の機会は、例年より少なかったはずですが、しかし、どのクラスも、とても素晴らしい合唱を作りあげました。それは、一人一人の真剣さが例年より高かったからだと思います。タブレットが配付されたこともあり、個人的に音楽を聞き込み、正確な音取りをする時間は、例年よりも多かったのかもしれない。

私は、「2学期は、創造性を発揮する学期だ」と生徒たちに伝えました。生徒たちは、合唱を作り上げるために、各自が主体的に音取りや個人練習に打ち込み、短期間の練習に一致団結して取り組みました。そして、多くの制約の中で、各学級の合唱を作りあげました。校訓「自主、協力、創造」の集大成がこの合唱コンクールであったと思います。

審査結果

合唱コンクールの優秀賞は、1年2組、2年1組、3年2組でした。

どのクラスも甲乙つけがたい素晴らしい合唱を作りあげており、正直、苦しい審査でした。



2年文化部が作成した掲示物

